

平成18年度 学校自己評価報告書

学校名	杉並区立杉森中学校
校長名	風見 章

提出日 平成19年 2月 16日

この報告書には、学校評価の集計を参考に今年度の評価結果から得られる学校力の状況および改善点、また、19年度の学校経営計画や教育課程に反映させる内容等を記入してください。なお、連絡いたしましたように、提出期限は2月16日です。集計用紙と報告書を担当までお送りください。

問い合わせ及び提出先 済美教育センター 小学校（高島） 中学校（照井）

1 18年度学校評価の分析

今年度の評価を校長としてどのように分析したかその結果を記入してください。分析と考察欄には分析した内容と考察を、成果、課題欄には分析や考察から得られた成果や課題を、改善策欄には保護者や地域等に公表する改善点や取り組みを記入してください。

項目	内 容	
管理職の 経営力	分析 と 考察	昨年度より肯定率が約9ポイント(78.8→87.6)上がり、改善の取り組みが評価され概ねよい状況である。学校の組織運営面や教員の意欲が評価されている反面、いじめ不登校への対応については不安を感じている生徒・保護者が一部いることがわかる。また、「先生たちは図書室やコンピュータ室を使った授業をよく行う」という設問では当然ながら生徒の評価は低くなっている。活用の方策を検討する。不登校への対応が昨年度の評価に比べて大きく上回った(生徒平均2.64→3.3 保護者2.66→3.0)。
	成果	まず、生徒の観点9(施設設備の活用)を除き、保護者では全観点で評価が昨年度を上回り、学校の取り組みが理解された。つぎに、いじめ不登校への対応である。今年度重点的に取り組んだ成果として、生徒の評価0.39(2.71→3.1)と保護者の評価0.25(2.75→3.0)がともに上がった。さらに、校外での不登校への対応について、避難訓練やセーフティ教室、朝礼等での取り組みが評価された。
	課題	第1の課題は、いじめ不登校への対応を中心とした生活指導である。今年度一定の成果を上げたが、不十分な点を洗い出しさらに取り組みを充実させたい。第2の課題は、学習指導の工夫・改善である。つぎの教師の授業力とも関連し、教員個人に関わることもあるが、学校として学習指導の工夫・改善を図る研修や取り組み等を充実させたい。
	改善 策	いじめ等への対応では、学級経営の充実を図り、状況把握のため毎月のいじめ調査とその対応を継続する。また、学年指導体制による指導と生活指導主任への相談・報告機能を充実させ、全校での取り組みとする。さらに、不登校への対応とも合わせ、スクールカウンセラー相談日を週2日対応に強化する。不登校への対応では、担任・生徒・保護者・スクールカウンセラー間の信頼関係を基盤に、相談機能を充実させる。また、適応教室や関係機関との連携を図り、学校への登校に向けて協働する。学習指導の工夫・改善は次の項目に記述。
教師の 授業力	分析 と 考察	昨年度より肯定率が2.2ポイント(80.6→82.8)上がり、教員のわかりやすく興味をもてる授業実践が少しずつ前進している。2教科を除いて評価平均が上がった。ただ、個人による力量や取り組み姿勢に差が出やすい現状がある。学校として「授業は生徒と先生が力を合わせてつくるもの」という授業づくりの視点を重視し、授業アンケート(生徒自己評価)を活用した取り組みを継続する。道徳指導は昨年度の評価より僅か上回ったが(生徒平均2.58→2.7 保護者2.94→3.1)、「生徒の心に残り、考えさせる内容」に近づける努力が必要である。また、進路指導は昨年度とほぼ同じ評価(生徒平均2.6)で、「将来の進路や生きかた」について考えたり話し合ったりする時間の確保の必要性を感じる。
	成果	まず、教員一人一人と学校としての授業改善の取り組みが生徒と保護者の評価に表れてきていることである(全教科生徒平均3.0→3.12 保護者平均2.80→3.0)。つぎに、教員に対する信頼性が高まったことである。生徒と保護者ともに昨年度より上回っている(生徒2.71→3.0 保護者2.7→2.9)。さらに、生徒や保護者の学校生活での充実感を得ている割合が増えたことである(生徒2.74→2.9 保護者2.9→3.2)。
	課題	第1の課題は、第1の項目の課題にも挙げた学習指導の工夫・改善である。教員一人一人の取り組みと学校全体としての取り組みを有機的に機能させ、教員の授業力を高めたい。第2の課題は、道徳指導の内容改善と第1学年と第2学年での進路指導の時間確保である。職場訪問や職場体験学習を含めた年間指導計画を練り直したい。
	改善 策	授業力向上については、今年度の学校としての取り組みを継続させる。年3回の研究授業の実施、毎学期1週間の教員授業参観週間の実施、年2回の授業アンケートと生徒自己評価の実施。道徳指導の内容改善については、各学年で実施してきた効果的な道徳教材の共有化やゲストティーチャーの活用促進、各学年の道徳担当者会でのより効果的な教材検討等を行う。また、1、2学年での進路指導の時間確保では、将来の進路や生きかたについて考える時間設定を年間指導計画に組み込み、計画的に実施する。
家庭地域 との 協働力	分析 と 考察	昨年度より肯定率が4.7ポイント(77.1→81.8)上がり、学校の取り組みが評価されている。ただ、「学校で地域の人といっしょに学習や作業をすること」は少ないので、生徒の評価の中でも一番低くなっている(生徒平均2.0)。杉並区が地域との連携をこのような観点で捉えるのであれば、今後学校経営上の地域との連携を考え直さなければならない。一方、保護者に対する「学校は地域の活動に協力的であり、また、必要に応じて地域意見や要望を取り入れる体制ができている」という視点での連携は評価を得ている(保護者平均0.23アップ 2.97→3.2)。ボランティア活動は地域での実施を含め、学校として年間を通して実施している。
	成果	まず、学校と地域との協力関係が評価されている。この協力関係は年々深まっており、本校が地域運営学校であることの利点を生かした取り組みに発展させたい。つぎに、保護者会や授業参観などの学校公開に対する姿勢が評価されている(保護者平均0.15アップ 3.35→3.5)。さらに、情報提供や意見・要望を取り入れる姿勢が評価されている(保護者平均0.23アップ 2.87→3.1)。
	課題	第1の課題は、地域の人材活用である。これまでも必要に応じて活用を図ってきたが、今後、双方向の学校と地域の関わりや本校が地域運営学校であることを考え合わせ、学校運営協議会による学校支援を本格化させる必要がある。そして、これに伴う第2の課題は、協議会委員、教員そして保護者の三者の連携を推進することである。
	改善 策	まず、昨年来の懸案事項である土曜日補習への大学生や地域のボランティアを増やす。そのための経費を協議会予算に計上して確保する。つぎに、(仮称)学校支援本部を立ち上げる。協議会委員数名と地域の有志数名で構成する。活動としてはまず、学校を支援サポートする地域の人材を確保する。放課後の活動支援や居場所としての図書室運営等になう。必要に応じて授業サポーターとして活用する。
区の課題 の 推進力	分析 と 考察	昨年度より肯定率が11.3ポイント(75.7→86.0)と大幅に上がり、德育、学力、体力そして食育の取り組みが評価されている。これは区の課題を教育課程に位置づけ、教職員が力を合わせて真摯に取り組んできた成果である。今後、これらの取り組みを継続・発展させていくことでさらなる効果が期待できる。生徒と保護者の第1の願いである学力向上では、それぞれ肯定率が72.4%、67.1%と他と比較して低くなっている。これは学力が付いたと実感できないからと捉えることができる。
	成果	教職員の生徒への道徳的な実践指導(生徒0.23アップ)、学力定着を図る授業を中心とした取り組み(生徒0.22アップ)、体育の授業を中心とした体力づくり(生徒0.1アップ)、そして総合的な学習の時間での栄養士による食育の授業実践や給食指導(生徒0.35アップ)に一定の理解が得られたことである。
	課題	学力向上は重要課題である。評価2と1をつけている生徒が55名おり、全校生徒の約20%に上る。また、保護者も50名が評価2と1をつけている。ただ、生徒本人の取り組み姿勢や意欲とも関係するので、学校と保護者、生徒の三者連携が不可欠である。特に家庭学習の取り組みでは家庭との連携を図る必要がある。
	改善 策	まず、上記の授業力向上の取り組みが生徒の学力向上につながると思う。つぎに、生徒への学習支援である。担任と教科担当者連携して、年間を通して土曜日補習に参加させる。さらに、家庭学習の定着である。学力定着の重要方針として年度当初の保護者会等で保護者に協力を呼びかける。

2 外部評価委員会(学校評議員会・学校運営協議会等)の評価

外部評価委員会からの意見や指摘・改善事項を、項目ごとに記入してください。

項目	指 摘 ・ 改 善 事 項
管理職の経営力	年度途中で校長が交替する状況が発生したが、新校長への引き継ぎが円滑に行われ、年度後半副校長を中心に学校経営が協力的に行われた。年度後半、いじめに対する対策と、その実践についての経営力が問われる事例があったが、校内指導体制の整備、スクールカウンセラーとの連携強化、生徒・保護者への説明など経営力が発揮された。いじめ対策のみならず、学力向上など教育課題の解決に向けて実践的な校内体制の構築と教職員の指導力向上等をめざした研修の充実が求められる。
教師の授業力	年間2回実施した「授業力アンケート」の取り組みについては本校独自のものとして評価できる。このことにより、教職員一人一人の授業改善に向けての意識が高まり、指導の工夫について意欲が認められる。さらなる授業力向上のために、研究授業を通しての校内研修の実施と外部講師を招聘した専門的な指導技術の向上を図ること、またきめ細かく生徒からの要望や意見を聞き、それに対応する校内指導体制の強化を要望する。
家庭地域との協働力	公開講座や「杉森祭2006」という地域児童への学校紹介イベントなどでは地域人材の活用がなされていた。しかし、一つ一つの行事ごとの活用体制においては組織的・計画的という点から十分とはいえなかった。そこで地域運営学校の学校運営協議会と保護者、教職員の連携体制を再構築し、計画的に地域人材の活用と学校提案の学校支援本部（仮称）の立ち上げを支援していきたい。
区の課題の推進力	区の教育課題を学校の教育活動に位置づけ解決に向け意欲的に教育活動を推進している状況が認められる。その結果、今年度の学校外部評価のポイントがすべてにおいて上昇している。次年度に向けても、教職員と保護者、学校運営協議会が連携して精力的に課題解決に向けて努力していきたい。
総 合	年度途中で校長が交替する状況が発生したが、計画された教育活動が支障なく行われ、その成果が外部評価や各行事ごとに実施した保護者などのアンケートによって認められている。学校運営協議会としては充実した学校運営が行われるよう、さまざまな支援と助言を行っていく。

3 来年度の学校経営計画や教育課程編成に重点として取り入れる改善策や目標

目標や改善策を重点とする順位で記入してください。数値目標として設定できる事項についてはその目標値を記入してください。

順位	重点とする目標や改善内容	目標値等
1	生活指導の充実 いじめ・不登校の解決に向けて教育相談の充実ときめ細かい生徒・保護者からの情報を収集する。そのためにスクールカウンセラーの配置日と生徒対象のいじめ調査回数を増やすこと、また直接校長へ声が届くような体制を作る。さらに教職員のいじめに関する研修を設定する。また教師一人一人が教育相談の担当者として生徒の相談に応じることが必要であることから、定期個人面談や随時面談が実施できる体制作りを行う。	スクールカウンセラーの週4日配置 実態に応じたきめ細かい「いじめ調査」の実施 校長投書箱の設置 年間2回のいじめ対策・対応研修会の設定
2	授業力向上 本校の生徒や保護者の最大の願いは「学力向上」「基礎基本の定着」である。そのためには教員の授業力向上が不可欠である。そのために、教職員全員に「授業力向上」の意識を強く持たせ、目標を設定し、達成に向けての努力が必要である。校内研修での研究授業時には必ず、外部講師を招聘し専門的な指導・助言を得られる体制をつくる。また授業アンケートを継続実施し、生徒の声を常に聞き取る姿勢を持ち続ける。	年間3回の研究授業と外部講師招聘 年間2回の授業アンケート実施
3	地域との連携強化 地域の人材活用の組織体制を構築するために学校支援本部を立ち上げる。さらに、その機能を活性化するために定期的な話し合いなどの会をもつ。	一学期に設立準備を図り、二学期より活動させる
4	食育の推進 生涯を通じた健康作りの基礎を培う時期であることから、食育を充実させ自己の健康管理が出来る自立した生徒の育成を目指す。特に骨密度の測定を継続し、生徒や保護者への意識をさらに高めさせる。	二学期における骨密度測定の実施
5	特色ある教育活動の推進 夏季休業中におけるイングリッシュサマーキャンプの実施、栄養士との連携を図った食育の推進、体育授業における体力向上プログラムの実践等の充実を図る。また、土曜日補習を実施し学力向上への取り組みを継続する。なお、土曜補習については地域との連携に発展させ、「学校支援本部」へ移管していく。さらに、朝読書等を通して読書活動を充実させる。	

4 区の指標による「学校評価」や「学校経営支援」に関する要望、改善点等ありましたらお書きください。

1 学校評価に関すること

(1)質問内容の改善を ①生徒用1-9「先生たちは図書室やコンピュータ室などを使った授業をよく行う」→「よく使うはあり得ない」と思います・

②3-2「あなたは、学校で地域の人といっしょに学習や作業をすることがある」→中学校では「地域の人といっしょに」の場面が設定しにくい。

③3-3「ボランティア活動が高齢者や幼児、障害者とのふれあい、地域清掃に限定されやすい」→もう少し広範囲に捉えられるように

④保護者用2-1「担任は授業をわかりやすく教えてくれます」→中学校では「教員が」が適切です。でも、保護者より「個人差がある」との指摘あり

2 学校経営支援に関すること

①学校サポーターの充実をお願いする。年間240×2,200円の現状では不十分である。

②19年度に「学校支援本部」を設立する。杉並区教育ビジョン推進計画(平成19年度修正)では19年度計画新規5校とあるが、是非とも教育委員会からの支援をお願いする。